

## 一般会議報告書

開催日時	令和4年 7月27日(水) 午前10時00分～午前11時07分					
会場	八雲町役場3階 議員控室					
団体名等	“二海和牛”創生プロジェクト					
参加者数	4名					
出席議員	安藤辰行、大久保建一、倉地清子、関口正博、三澤公雄、宮本雅晴、佐藤智子、黒島竹満、千葉隆					
役割分担	司会者	三澤	記録者	関口	記録者	
会議のテーマ	・八雲町に“ブランド和牛肉”を作るメリットを理解してもらい、それに取り組む生産者の“熱量”を感じてもらう。					
意見交換等	別紙のとおり					

上記のとおり提出します。

令和4年 8月23日

八雲町議会議長 千葉 隆 様

記録者 関口 正博

別紙

○八雲町に“ブランド和牛肉”を作るメリットを理解してもらい、それに取り組む生産者の“熱量”を感じてもらう

〈団体〉

- ・八雲町のブランド黒毛和牛の確立に挑戦したい。
- ・直近の目標として、5年後に北海道で開催される全国和牛能力共進会に出場し、トップブランドデビューの足掛かりとなる入選を目指している。

〈議員〉

- ・皆様の取り組んでいる分野において、北海道の先進地は？

〈団体〉

- ・白老町や平取町が先進地だが、現在は十勝の豊頃町の個人の酪農家がものすごい勢いで取り組み、北海道の繁殖のレベルを上げ、十勝市場の単価を引き上げている。
- ・従来の「太らす」という考え方ではなく、「良質」を目指しており、購買者に注目されている。
- ・全国的には量を求める酪農家が多いが、私たちは質で勝負したい。

〈議員〉

- ・現在の八雲の酪農家間の連携の状況は？

〈団体〉

- ・従来よりは進んでいる。このプロジェクトの取り組みは、地元の方々にとってメリットは非常に大きい。

〈議員〉

- ・八雲町や八雲町議会にどんな協力を望むのか？

〈団体〉

- ・遊休施設の活用等や資金面。今回の取り組みでは牛の肥育期間が長いため、施設も必要だし、資金面も従来よりかかる。また、販売ルートも積極的にバックアップしてもらいたい。

〈議員〉

- ・どのような流通形態や、将来展望を描いているか？

〈団体〉

- ・まずは東京、その後海外にも目を向けたい。現在十勝に、海外に直接輸出できる工場ができたが、そのような施設も作りたい。
- ・まずは海外より国内の流通を目指したいが、なかなか難しいので町に協力してもらいたい。

〈議員〉

- ・販売ルートの確保などは、本来は農協が担うものなのか？
- ・はこだて和牛のブランド名を得るまでの手法は新函館農協で把握していると思うが、それを活用できないか？

〈団体〉

- ・新函館農協は全く積極的ではない。法人を作るか、もしくは現在町が進めている二海サーモンなどの事業に関わる流通業者と連携ができればと考えている。

〈議員〉

- ・八雲町の酪農の将来を託し青年舎ができたと思っているが、酪農家の皆さんが青年舎にできること、望むことはあるか？

〈団体〉

- ・施設を見させていただいたが、空いている牛舎の活用、借り腹生産での活用ができればと考える。
- ・黒毛和牛に関して、最先端の考え方を研修項目として取り入れていただくことは、八雲に新しい農業のかたちを作るという意味では非常に興味がある。

〈議員〉

- ・現在、黒毛和牛のブランド化に積極的な生産者はいるのか。

〈団体〉

- ・個々での肥育実績はある。現在の状況は、ノーブランドの黒毛和牛であれば市場によっては100万円の値がついても、餌代に60万円かかっているため、40万円にしかない。ある程度のロットも必要だが、個人では限界がある。

〈議員〉

- ・現状では、いくら価値のある牛を作っても、狙いどおりの肉質のものができたのかわからない。自分たちの作ったサイクルによってそれを確認し、結果の更新ができるようにするとともに、目標である品評会のために、少量でも生産していったブランド化のきっかけを作ってはどうか。
- ・今まではロットをまとめないと販売実績でブランドを作れなかったが、品評会を目指してチャレンジすること、量産できる体制を構築することで、借り腹などの取り組みなど、町内の各農家さんにとっても、地元でブランドを作るメリットがある。

〈団体〉

- ・素牛を1年で出荷させることによって経営を回すことと、肥育して出荷を3年待つことの違いは経営的にあまりにも大きいため、八雲町ではブランド化が定着しなかった。コロナ禍の影響でさらに顕著になった。
- ・牛乳は年間決められた値段で買ってもらえるが、肉牛は値段に左右される。ブランド化を目指したいが、個々の経営を考えると、なかなか踏み込めないのが現状。
- ・現在、石田さんの名前で牛を出荷すると、平均より10万円高い値段で取引される。様々な検証はも

もちろん必要だし、個人的な見解でしかないが、もし条件がそろえば石田さんの牛は一枠を取れると思っているし、ブランド化を目指せる知識も技術もある。実際、石田さんの話を聞き、新規就農された方もたくさんいる。石田さんに力を付けさせてほしい。

〈議員〉

- どの程度の資金が必要かなどの研究を進め、資料をまとめたほうがわかりやすい。
- 事業計画がないと事業にならない。我々は話を聞いたから理解できるが、予算を作る行政側が判断できない。どのくらい資金が必要なのか、八雲町として資金を出すことの妥当性も判断できない。
- 他地域の先進事例などを研究し、具体的な計画を提案してほしい。事業計画等の作成は農林課に相談してみてもどうか。
- 石田さんが優れた技術を持った方なのは理解した。青年舎は八雲町の農業の底上げのために、このような方々や事業に投資したり協力したりなどの役割を持たすことはできないのだろうか。そういう仕組みがあっても良いのでは。
- 青年舎も肉牛の勉強は進めているし、石田さんとも話をしている。青年舎がどう関われるかは積極的に考えてみたい。
- 今回のことをきっかけに青年舎との関わりができれば。

〈団体〉

- 農林課や青年舎の協力は我々も望んでいることだし、良い意見をいただいた。5年後の品評会に向けての取り組みは、時間的にも相当厳しいことは理解していただいたと思う。
- みんなで必死に力を合わせ進んでいく中で、協力いただけることがあるならお願いしたい。またこのような話し合いの場を設けていただければのらお願いしたい。